

## 複雑性悲嘆（CG）研修会のご案内

本研修会は、複雑性悲嘆やそのリスクの高い人たちへの専門的なケアや治療について、検討や意見交換を行う場として、平成22年に立ち上がりました。今回で10回目になります。

今回の第1部は高校生の時にがん闘病を経験され、その後、小児科医になられた松井基浩先生に、ご自身の経験とAYA世代の患者がかかえる社会的困難と成長について、第2部は看護師で心理士でもある広瀬寛子先生に、20年間続けてこられたサポートグループにおける課題を、参加者と一緒に考えながらご講演頂きます。

### 「 第10回 複雑性悲嘆(CG)研修会 」

日時：平成31年3月9日(土曜日) 午前11時～午後5時（受付は10時40分より）

場所：龍谷大学 梅田キャンパス（大阪市北区梅田2-2-2 ヒルトンプラザウエスト オフィスタワー14階）

場所は右のURLでご確認下さい。 [http://www.ryukoku.ac.jp/about/campus\\_traffic/traffic/t\\_osaka.html](http://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/t_osaka.html)

※JR大阪駅 桜橋出口から徒歩4分

今回は関西学院大学梅田キャンパスではありませんので、お間違いのないようお越し下さい。

対象：悲嘆のケアや複雑性悲嘆の治療に関わる専門職や専門家（医師、看護師、保健師、心理職、MSW、PSW、教師、等）、関連領域の研究者・大学院生 など

研修費：5000円（当日、受付でお支払い下さい） 定員：50名

内容：第1部 午前11時～12時半

「AYA世代がん経験者、小児血液・腫瘍科医としてAYA世代がんについて考える」  
～社会的困難と成長、ピアサポート、友人との死別～

東京都立小児総合医療センター 血液腫瘍科 医師 松井基浩先生

第2部 午後13時半～16時45分

「遺族のサポートグループの『卒業』について考える」

～がんで家族を亡くした人のためのサポートグループ20年の経験から～

戸田中央総合病院カウンセリング室 広瀬寛子先生

16時45分～17時 質疑応答、意見交換

【申し込み方法】当日の資料準備のため、①お名前、②ご職業、③勤務先、④メールアドレス、⑤緊急連絡用電話番号、⑥懇親会参加の有無、をご記入の上、福島県立医科大学の瀬藤までEメール（瀬藤 [setou@fmu.ac.jp](mailto:setou@fmu.ac.jp)）でお申し込み下さい。また、「第10回複雑性悲嘆研修会」のウェブページや「こくちへず（第10回複雑性悲嘆研修会のページ）」からインターネット上でお申し込みも可能です。

（インターネットからのお申し込みはPCに限ります。）

その他：・研修会終了後、懇親会を予定しています。どうぞご参加下さい。（17時半～19時半）

・お問い合わせ先：福島県立医科大学災害こころの医学講座 瀬藤乃理子（E-メールは上述）

## 研修会講師のご紹介

### <第1部 講師> 松井 基浩 先生

東京都立小児総合医療センター 血液腫瘍科 医師

東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科勤務。若年性がん患者団体「STAND UP！！」代表。16歳で悪性リンパ腫に罹患。8か月の入院、1年半の外来治療を経て、浜松医科大学医学部入学。2008年に医師免許を取得し、初期研修、後期研修を経て、2016年から東京都立小児総合医療センターで小児がん診療に従事。2009年に若年性がん患者団体「STAND UP！！」を設立し、現在まで代表を務める。

AYA世代のAYAとは、Adolescent and Young Adult の頭文字をとったもので、「思春期と若年成人」を表す言葉です。おおむね15歳～29歳をさすと言われています。AYA世代は小児から成人の移行期にあたり、この時期のがん患者数は非常に少なく、精通する専門家も限られ、治療法が十分に確立していないなど、他の世代のがんとは異なる特徴をもちます。また、成長・発達段階に発症することにより、さまざま身体的、心理的、社会的影響を受けやすいこともわかっています。

### <第2部 講師> 広瀬 寛子 先生

戸田中央総合病院カウンセリング室 看護師・認定心理士

1983年千葉大学看護学部卒業後、石川県立中央病院で看護師として勤務。その後、千葉大学大学院看護学研究科、東京大学大学院医学系研究科を修了。保健学博士。東京大学医学部健康科学・看護学科で助手を務めた後、東京都精神医学総合研究所医療看護研究部門の主任研究員として、がん患者のための看護カウンセリングやサポートグループ研究を行う。1998年より戸田中央総合病院カウンセリング室の室長として、患者、家族、遺族、職員の心のケアに携わっている。特に、終末期の患者・家族の看護カウンセリングと遺族のサポートグループ、看護師のサポートグループに力を注いでいる。著書に、『看護カウンセリング』（第2版、医学書院、2003）、『悲嘆とグリーフケア』（医学書院、2011）などがある。

#### ～広瀬先生からの言葉～

私たちのグループは月2回、プログラムは語り合いの時間90分、感想文記入とティータイムの時間30分となっています。このグループは、グループに参加しなくてもなんとかやっているとされた時を「卒業」としています。卒業後は、希望者は2ヶ月に1回行われているOB会に参加できます。卒業までの期間は人それぞれで、1年ほどで卒業する人もいれば、5年経っても参加している人もいます。今回は「卒業」をテーマに、特に「卒業しない」と言い続けていたある遺族の事例を中心に、スタッフとしての葛藤も率直に語らせていただくことで、皆様と共に「卒業」について考えたいと思います。

## 第1回グリーフ&ビリーブメント学会のお知らせ

既にご存知の方も多いと思いますが、これまで10回のグリーフ&ビリーブメントカンファレンスの積み重ねを経て、平成30年に国内初めての悲嘆(グリーフ)に関する学会が立ち上がりました。下記の日程で、第1回のグリーフ&ビリーブメント学会が開催されます。こちら是非、ご参加下さい。

詳細は、グリーフ&ビリーブメント学会のHPに随時、更新されます。学会HP <http://gandb.net/>

【日時】平成31年2月23日(土)～24日(日)

【場所】龍谷大学大宮キャンパス東簧(京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1)

JR京都駅より徒歩13分

【会長】坂口幸弘 (関西学院大学人間科学部教授)

\* 上智大学グリーフケア研究所特任所長の高木慶子先生のご講演のほか、複雑性悲嘆に関するシンポジウムなども予定されています。